



制作：名城大学薬学部 病態解析学Ⅰ・
Eプロ（中村真理子、武藤利奈、
野口健、野田幸裕）
監修：NPO J-DO(鍋島俊隆)

平成31年3月5日（火）弥富市立弥生小学校にて
Eプロは「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」を
テーマに「くすり教室：実験講座」「薬物乱用・依存」を開催。

共催：特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構（NPO J-DO）

名城大学薬学部では出前講義として、高齢者や小学生にも「くすり」や「薬物依存」のことで知らせてもらう授業や体験実験を特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構（NPO J-DO）の協力の下に行っています。こうした社会活動を本年度は名城大学 Enjoy Learning プロジェクト（通称：Eプロ）の薬学生と共に行っています。Eプロとは、大学が課外活動を支援する事業「Enjoy Learning プロジェクト」の通称です。

弥富市立弥生小学校（大友康法校長）の養護教諭 鈴木 葵先生のご尽力により、平成31年3月5日（火）弥富市立弥生小学校にて、「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」「くすり教室：実験講座」「薬物乱用・依存」を下記の内容にて行いました。当日は6年生の児童103名が「くすり」や「薬物依存」について学び、薬の正しい使い方や薬物の怖さが知れてよかったと大好評でした。Eプロとしては9回目の開催となり、本年度最後の活動となりました。

弥生小学校における「くすり教室」

日時：平成31年3月5日（火）14時00分～14時30分

場所：弥生小学校特別教室

内容：

学部4年の野口健がスライドを使用してわかりやすく以下の説明をしました。

・「実験を始める前のお話」：Q&A方式

くすりをどのように飲んだら良く効き、副作用を防ぐことができるか、Q&A方式で参加者が答える、児童参加型で行いました。児童は問い掛けに対して元気よく挙手し、活発に答えてくれました。

・「体験実験」

参加者は13グループ（1グループ7～8名）に分かれ、内容をより理解できるように、名城大学薬学部 野田幸裕教授（NPO J-DO 副理事長・Eプロ）、大学院生（病態解析学Ⅰ）と薬学生（病態解析学Ⅰ・Eプロ4、5年生17名）による補助・解説を受けながら、体験実験を行いました。「2つの薬で溶ける速さが全然違う！」「色が変わるのが化学反応みたいで面白い！」と驚きの声や歓声がわきあがりました。

<実験項目>

1. 水がなくても飲める薬があるのを知ってる？
2. 「くすり」を「お茶」で飲むとどうなるの？
3. 「うがいぐすり」でうがいした後に、すっぱい食品を食べるとどうなるの？



「乱用薬物には絶対手を出さない！」

日時：平成31年3月5日（火）14時45分～15時25分

場所：弥生小学校特別教室

内容：

- ・「乱用薬物には絶対手を出さない！」：実験を交えた講義
野田幸裕教授がスライドを使って以下についてわかりやすく説明しました。
 1. どのような薬がドラッグとして乱用されているか
 2. 薬物乱用はどうして怖いのか
 3. 乱用されている薬の正しい情報
 4. 薬物乱用者の実態
 5. 薬物乱用に対してみんなが出来ること

講義中には、「タバコによって成長はどうなってしまおうのだろう？」については連続写真を用いて、「お酒を大量に飲むと肝臓はどうなってしまおうのだろう？」「シンナーを吸うと体はどうなってしまおうのだろう？」については各グループで薬学生によるデモ実験により、視覚的に理解を深めてもらいました。児童からは「タバコを吸うのと吸わないのでこんなに顔が違うんだ」「アルコールでレバーの色が変わってしまうのが怖い」という声が多く聞かれ、薬物乱用の恐ろしさについてしっかりと理解することができたようでした。

